

恵山の火山活動解説資料（令和元年11月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図1、図2-①）

監視カメラによる観測では、Y火口の噴気の高さは火口縁上50m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

・ 地震及び微動の発生状況（図2-②～③）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図2-④、図3）

10月30日～11月1日に実施したGNSS繰り返し観測では、引き続き恵山ドームを含む基線で伸びの変化が観測されていますが、火山活動との関連の有無は不明です。

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる地殻変動は認められませんでした。



図1 恵山 西南西側から見た山頂部の状況（11月26日、高岱監視カメラによる）

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>）や気象庁のホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。また、同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平29情復、第958号）。

今回の火山活動解説資料（令和元年12月分）は令和2年1月14日に発表する予定です。

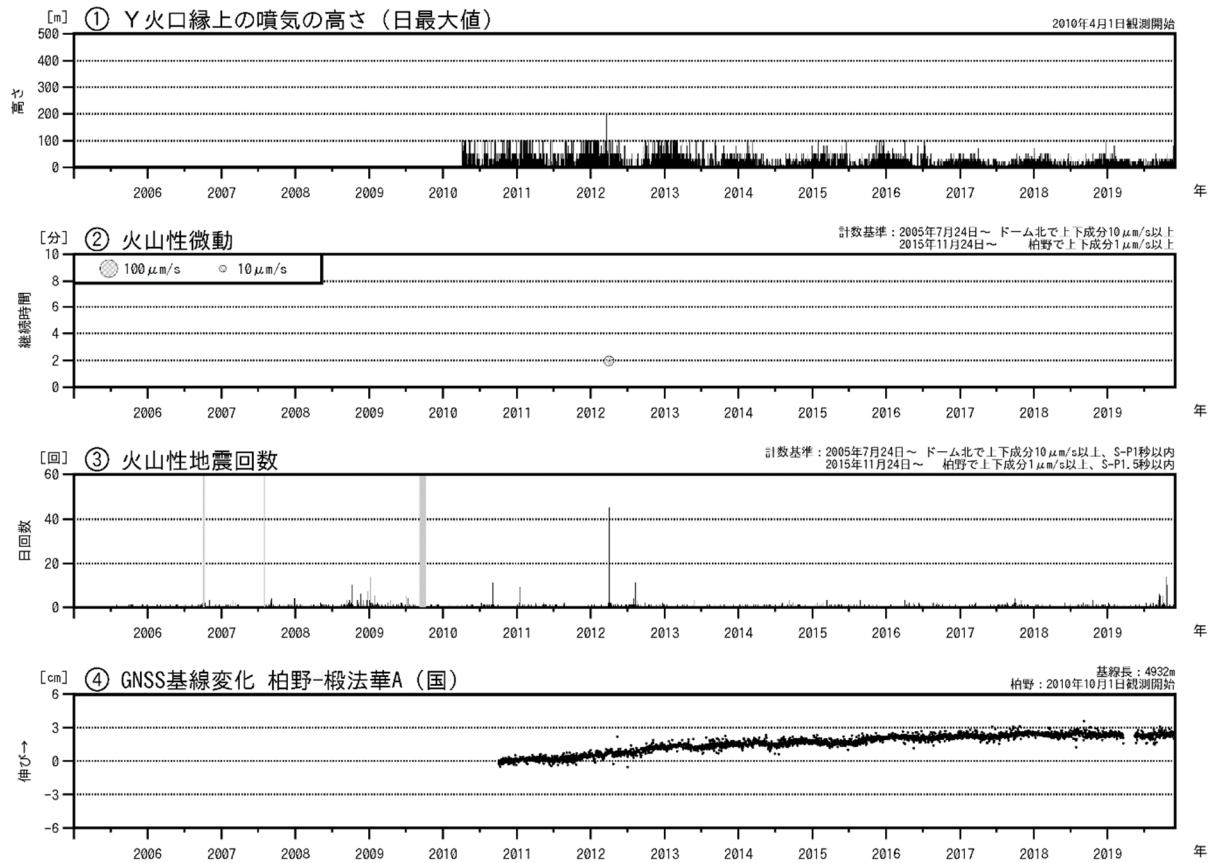


図2 恵山 火山活動経過図（2005年7月～2019年11月）

③の灰色の期間は機器障害のため欠測しています。

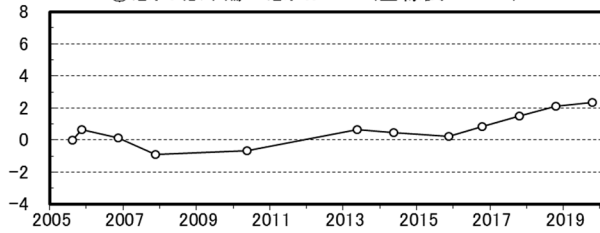
④のGNSS基線は右配置図に対応しています。

④のGNSS基線の空白部分は欠測を示します。

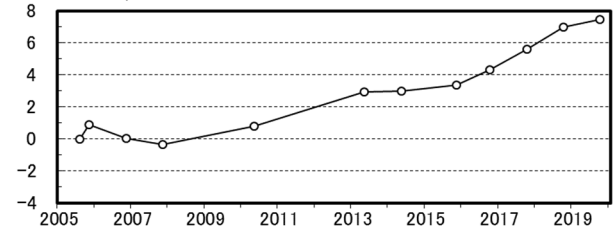
④のGNSS基線は「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。



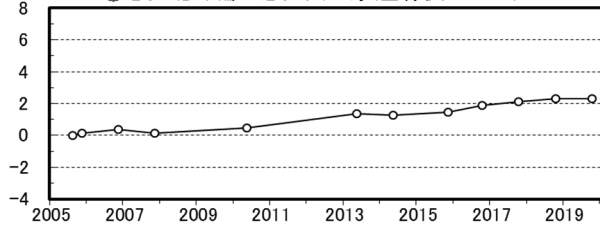
基線長(cm) ①恵山北外輪～恵山ドーム(基線長:1250m)



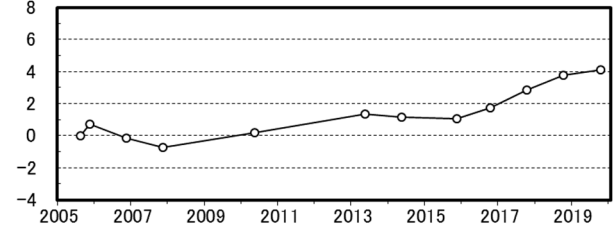
基線長(cm) ④恵山ドーム～恵山火口原(基線長:1503m)



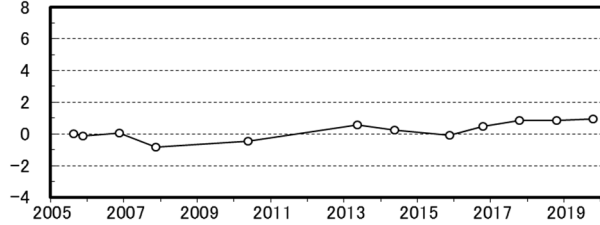
基線長(cm) ②恵山北外輪～恵山火口原(基線長:1017m)



基線長(cm) ⑤恵山ドーム～スカイ沢山(基線長:761m)



基線長(cm) ③恵山北外輪～スカイ沢山(基線長:1235m)



基線長(cm) ⑥恵山火口原～スカイ沢山(基線長:920m)

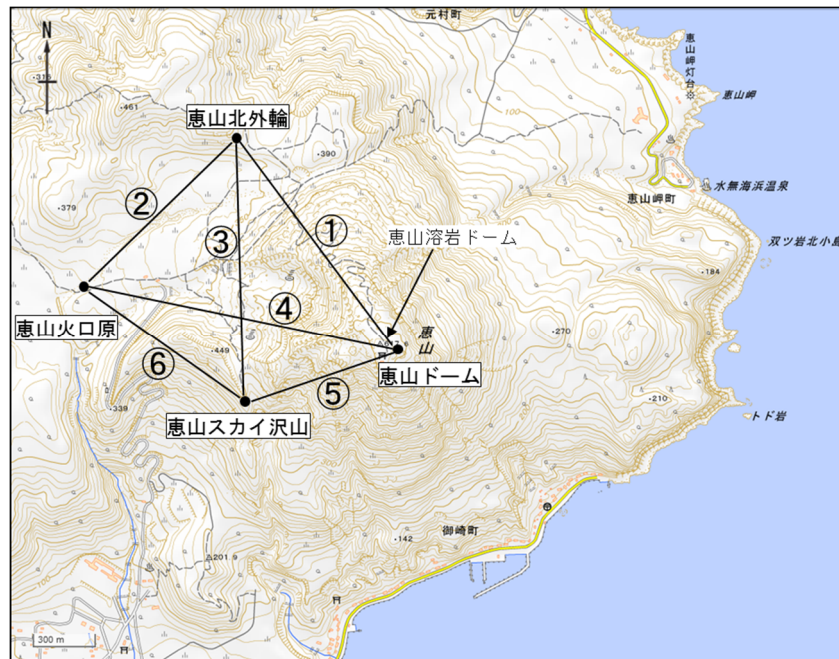
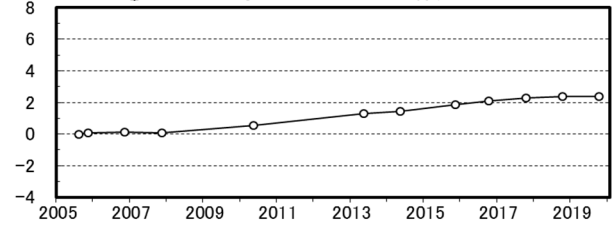


図3 恵山 GNSS 繰り返し観測による基線長変化及び観測点配置図（2005年8月～2019年11月）

GNSS 基線①～⑥は観測点配置図の①～⑥に対応しています。

- ・ 恵山ドームを含む基線で伸びの変化が観測されていますが、火山活動との関連の有無は不明です。

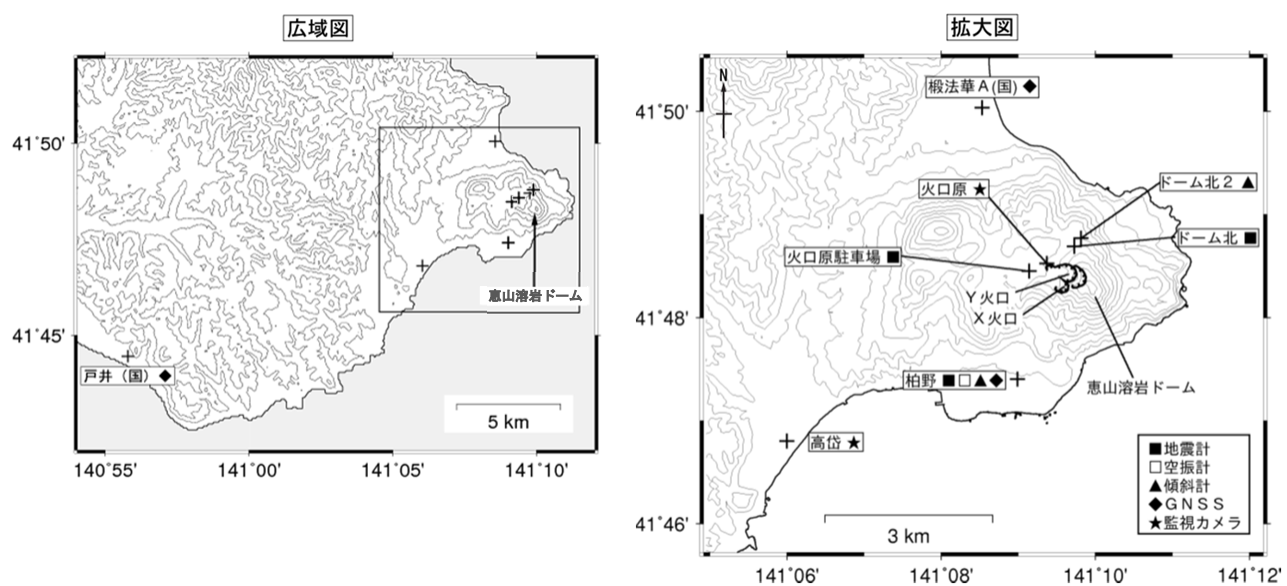


図 4 恵山 観測点配置図

＋は観測点の位置を示します。
気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。
（国）：国土地理院